

お茶の消費の復活に活路を見出す

(株)伊勢茶工房ささら (茶)

- ・地域の農家3戸が共同し、全国最大規模の荒茶加工場を設立。2007年より稼働。
- ・周辺農家約60戸から搬入される生葉の収穫面積は100haほど。
- ・お茶の新しい飲みかた・食べ方を提案。

三重県は全国3位の茶産地であり、なかでも鈴鹿を中心とした北勢地域は「かぶせ茶」の全国一の産地です。かつて、収穫期の茶農家は24時間体制で生葉の収穫と自家加工を行っており、過重労働および投資負担が問題でした。「ささら」は自動化・省人化された最新鋭の工場を持ち、周辺農家の労働負荷および投資負担の軽減に役立っています。

ささらでは、粉末緑茶・茶のドレッシング、うがい茶などの商品開発および直接販売などの六次産業化に取り組むほか、市内の飲食店と連携してうどん、ラスク、ケーキ、そばなどの原材料



伊川淳也さん

代表取締役
大野博司さん

取締役
伊川由隆さん

にお茶を使ってもらうなど、お茶の新しい飲み方・食べ方の提案を続けています。また、茶摘み体験のイベントなども収穫期に実施しています。

大学を出たばかりの後継者が2人もいます。その一人である伊川淳也さんは、「若い視線で、新しい取り組みをしていきたい」と抱負を語ってくれました。

～お茶の消費拡大を図る取り組み～

鈴鹿市茶業組合と鈴鹿市は共同で、お茶の消費拡大を図るためにさまざまなイベントを開催しています。

鈴鹿茶～キット



小学校高学年の児童とその保護者を対象に、3つのレースを親子ペアで行い、合計得点で茶～キットチャンピオンを決める、鈴鹿ならではの大会です。

うがい茶の贈呈



緑茶に含まれるカテキンがインフルエンザ予防に効果的なことから、鈴鹿市茶業組合とささらが市内の公立幼稚園と小学校に毎年寄贈しています。

お茶のおはなし会



お茶が持つさまざまな効能や、正しい入れ方などを広く市民に知ってもらうため、公民館や小学校、幼稚園などで開催しています。

イベントでの鈴鹿茶のふるまい



シティマラソン、植木まつりなど市内で開催されるイベントでの鈴鹿茶の呈茶。新茶の時期などは、市役所庁舎でも振る舞いを行っています。

身近にある農業に触れ、 鈴鹿の食・環境・地域を考えよう



内山智裕さん

(三重大学生物資源学研究科 准教授)
(鈴鹿市地産地消推進協議会会長)

■鈴鹿市の農業の特徴

鈴鹿市は、商業・工業の一大集積地であるだけでなく、農業でも県内トップクラスの産出額を誇ります。生産物を見ても、米・麦・大豆、茶、植木、花き、野菜、果樹、畜産など、多彩な農業が展開されています。ただし、鈴鹿市でも他地域と同様に、農産物価格の低迷や燃料・飼料などの資材費の高騰があり、生産者は厳しい状況に置かれています。

鈴鹿市の農業就業人口は「減少と高齢化」が急激に進むと予想され、農地が担い手に円滑に集積されなければ、農地の荒廃が進むことが心配されます。

このように、数字だけを見ると先行きの暗さが強調されがちですが、現実には活躍する農業者も少なくありません。

■鈴鹿市の農業の強み

活躍している農業者に共通していることの1つは、地産地消や六次産業化などの連携体制の構築です。

鈴鹿市では平成23年に「すずかの地産地消推進条例」を制定しています。例えば、米・麦・大豆などを生産する水田農業は、国の政策(最近でいえば、TPP交渉や減反政策の変更など)に大きく左右されます。そのような中でも、米や小麦(粉)の直接販売、これらを原材料とした味噌・麺・日本酒などの開発、飲食店でのメニューの提供などの取り組みが行われています。

その他の品目でも多様な取り組みが行われていて、市民の方が「鈴鹿産」を楽しめる環境が、生産者や商工業者の皆さんによって提供されているといえます。これは、農・商・工がバランスよく配置された鈴鹿市の特色です。

■なぜ地産地消なのか

私たちの食生活の豊かさは、国際的な食品の大量流通によって実現されています。それでも地産地消が重要なのは、私たちが口にしていく食べ物がどのように生産されているかを知ることのできる、貴重な機会となるからです。

今日では、農産物の生産から消費までの距離がますます長くなっています。食品偽装事件の多くが、生産現場ではなく流通過程で起きている理由もここにあります。身近にいる消費者から自らの商品を「批評」してもらうことは、生産者がよりよい農産物を提供するためにも重要なことです。

生産者は、単に地元産だから買ってくれると考えるのではなく、「みえの安心食材」認証など、生産物により責任を持つ取り組みが必要です。そして消費者は、安全・安心な地域の食材を意識して買うことも大切です。

■鈴鹿市農業の未来のために

最後に、地域の農業の役割は、単に食を提供することだけではありません。農地をいかに利用するかという課題は、浸水などの災害防止や景観の形成などの面で、地域の環境全体にも大きく影響します。

ますます農業の担い手が減少すると見込まれる中、今後は、経営感覚に優れた担い手とともに、生産組織や女性も含めた多様な担い手の育成と確保を図る必要があります。

元気な農業者だけでなく、地域住民の方も一緒に、地域全体で鈴鹿市農業の将来を考えていくことが不可欠です。

農業委員会では、農業を始めたい方、農業に関心のある方からの問合せをお待ちしています。

〒513-8701 農業委員会事務局

☎382-9018 📠382-7610 ✉nogyoiinkai@city.suzuka.lg.jp ^